



私は、かつて、新渡戸稲造で博士論文を書くにあたり、新渡戸と関連のある場所を訪ねたことがあった。

第一は、青森県三本木である。ここは、新渡戸の祖父・傳（つとう）が開拓した場所である。十和田湖の水を引くにあたって、多くの困難、辛苦を経て、稲生川の掘削に成功した。その開拓のDNAを受け継ぎ、稲造は北海道の開拓にあたりたいという希望を抱き、札幌農学校に進学することとなる。

第二は、札幌遠友夜学校跡である。新渡戸夫妻が建てた夜学で、1894年から50年続いた。貧しくて学校に行くことができなかつた子どもたち（大人も含む）に無償で教育を提供した。札幌農学校、後の北海道帝国大学の学生がボランティアで教師の任を引き受けてくれた。新渡戸は、一高校長、東京帝国大学教授とエリート層を教育したのみならず、教育的に恵まれない子どもたちにも救いの手を差し伸べていたのである。夜の6時15分から9時過ぎまで、多くの若者がここで教育をうけることで自らの人生を切り開いていった。

第三は、台湾の高尾にある台湾糖業博物館である。新渡戸は、台湾総督府の児玉源太郎（総督）、後藤新平（民政長官）の強い要請で、1901年、台湾総督府殖産課長として赴任した。日清戦争で植民地となった台湾の殖産興業は何がよいかを探るのが課題であった。新渡戸は、さとうきびから砂糖を製造することを提案した。新渡戸は日本と台湾とのコラボという視点で糖業を考えており、搾取という視点ではなかった点は重要である。その後、台湾糖業は急速な成長を遂げ、台湾の主要な輸出品となっていく。しかし、このことが「新渡戸は帝国主義者か」という疑問が投げかけられることとなった。

私が博士課程に行ったのは、実は、この問題を自分なりに探究したかったからである。私は31年勤めた恵泉女学園高等学校を57歳で退職し、横浜国大の博士課程に入学した。「新渡戸に向けられた負のイメージを払拭したい」その一心であった。この問題を解くにあたって私は「開拓」という点に注目した。三本木は土地の開拓であるが、札幌遠友夜学校は心の開拓であった。台湾での新渡戸の働きは、当初は土地の開拓であるが、ある程度、台湾が豊かになったら次の段階として学校を建てたいと思っていたという。つまり、心の開拓である。新渡戸の思想は、「モノ」から「精神」へと向かうところに特徴がある。神から自分に与えられた能力や機会を十分に生かし、「進取の気性」の大切さを新渡戸は訴え続けたのではないだろうか。



「早春の万座にて」

柏カフェスタッフ

津原 豊子

樋野先生お誕生日お祝い会&新渡戸稲造生誕百六十周年記念祭が2022年3月20日～21日に万座温泉「日進館」で開催されました。

おいしい食事、効能豊かな温泉、そして、谷口稔先生講演会では新渡戸家のルーツと家系、生育歴などが詳しく語られました。又、その仕事の一つ一つについて、生存中はあまり評価されなかつた（？）ようですが、現在では、あの時代に新渡戸稲造なしでは進まなかつた仕事も多くあつたと言う評価がなされています。

特に祖父「傳」からの隔世遺伝、札幌農学校での学力は内村鑑三が1位で稲造は6位、但し英語は抜群で1位、彼の成功は英会話が達者なこと、常に中道をとると言う事で“バランス感覚”が優れていた事かも知れません。「にとべ」の名は耳では聴いても、いざ書くとすると、多数の方は多分、読めない、書けないのではないのでしょうか。嬉しかった事は万座温泉「日進館」内に、「新渡戸稲造セミナーハウス」が全員賛成で設立された事です。集まった人々が未来を！夢を！語りました。

さあ「セミナーハウス」が設立されました！どなたも興味のある方は、万座温泉、日進館を目指して、いつでもお越し下さい。又、集まりましょう！新渡戸稲造と会えます！仲間と会えます！